News Release

「鉄道地震工学研究センター 2025 年度 アニュアルミーティング」を開催しました

２０２５年１２月１２日
公益財団法人鉄道総合技術研究所

公益財団法人鉄道総合技術研究所（以下、鉄道総研）では、鉄道地震工学研究センターの活動を紹介し、研究開発や情報配信について意見交換する場として、２０１４年度よりアニュアルミーティングを開催しています。本年度は、１２月５日に下記のとおり開催いたしました。

【概要】

鉄道地震工学研究センターの最新の研究成果 3 件を報告した後、「兵庫県南部地震から 30 年～鉄道地震工学の発展と今後の課題」をテーマとしたセッションを開催し、震災当時の技術者が復旧・復興を通じて得た貴重な知見の継承や、将来発生が予測される巨大地震に対する備えについて、鉄道事業者や専門家を交えて幅広い議論を行いました。

震災復旧等に携わった 3 名の専門家より、復旧・復興の取り組みや得られた知見、現役世代への提言などに関する講演を頂き、意見交換を行いました。この中で、当時の震災復旧工事においては、再利用可能な部材を最大限活用して早期復旧を図る一方、擁壁など挙動が複雑な構造物や緊急輸送道路を支障している構造物は早期に撤去再構築を行うなど、現場の状況を踏まえた判断が各社でなされたことが紹介されました。また、震災から得られた将来の復旧復興に資する知見として、平素からの組織を超えた関係者との緊密な連携、発災時の指揮系統の迅速な確立、復旧ヤードおよび資材のすみやかな確保などが重要であることが示されました。

セッション「兵庫県南部地震を経験して：現場技術者の奮闘」の様子

「ディスカッション」の様子

公益財団法人 鉄道総合技術研究所
〒185-8540 東京都国分寺市光町 2-8-38

１．開催日時：2025 年 12 月 5 日（金） 14 時 00 分から 17 時 30 分

２．開催場所：日本工業倶楽部会館 大会堂（東京都千代田区丸の内）およびオンライン配信

３．プログラム（敬称略）

■開催挨拶
鉄道総研　鉄道地震工学研究センター長　豊岡　亮洋

■鉄道地震工学研究センター報告
「P 波規定値超過警報手法の開発とその適用」
鉄道総研 鉄道地震工学研究センター 地震解析研究室 主任研究員　森脇　美沙
「施工から約 10 年後の脈状地盤改良工法の効果確認」
鉄道総研 鉄道地震工学研究センター 地震動力学研究室 研究員　小野寺　智哉
「路線全体の橋りょう・高架橋の効率的な地震時挙動推定のための情報の取得優先度」
鉄道総研 鉄道地震工学研究センター 地震応答制御研究室　主任研究員　小野寺　周

■セッション：「兵庫県南部地震から 30 年～鉄道地震工学の発展と今後の課題」
(1)趣旨説明
（前掲）　豊岡　亮洋
(2) 兵庫県南部地震による鉄道の被害の概要
鉄道総研 鉄道地震工学研究センター 地震応答制御研究室　研究室長　坂井　公俊
(3) 兵庫県南部地震を経験して：現場技術者の奮闘
ジェイアール西日本コンサルタンツ(株) 土木設計本部 技術統括部 担当部長　金子　雅
阪急設計コンサルタント（株）　代表取締役社長　平田　大
阪神高速道路（株）　シニアフェロー　足立　幸郎
(4) 兵庫県南部地震から 30 年の取り組みと将来に向けて
鉄道総研 鉄道地震工学研究センター 地震動力学研究室　研究室長　井澤　淳
(5) ディスカッション
(6) まとめ
（前掲）　豊岡　亮洋

■閉会挨拶
鉄道総研　企画室長　長倉　清

４　参加者：鉄道事業者をはじめ官公庁、大学および一般企業より 227 名

（問い合わせ先）公益財団法人鉄道総合技術研究所 総務部 広報　TEL：042-573-7219